

就労継続支援A型事業所における地域連携活動実施状況報告書

事業所名	就労支援事業所ノースリーフ	事業所番号	0113200984
住所	士別市大通西8丁目2941番地	管理者名	橋本憲幸
電話番号	0165-26-7886	対象年度	令和7年度

地域連携活動の概要

<p><活動内容></p> <p>活動場所：JA北はるか美深本所、音威子府支所、下川支所 アスパラ選果施設、かぼちゃ選果施設、音威子府そば乾燥調製施設、フルーツマト選果施設、青ねぎ・春菊選果施設 実施期間：4月～12月 利用者人数：3名～16名（全施設延べ人数） アスパラ選果施設：カット原料計量器投入、自動結束機セット、結束原料そば施設：調製済原料麻袋ミシン縫い、麻袋はい積み作業 南瓜選果施設：磨き済原料選別、製品箱はい積み フルーツマト選果施設：箱作成、箱入れ作業、箱バンド掛け作業、箱はい積み作業、空コンテナ片付け、自動箱作成機補充作業、トマト原料載せ作業 青ねぎ施設、春菊施設：結束作業、袋入れ作業、箱詰め作業</p> <p><目的></p> <p>障がいを持った方に作業を行ってもらうことで、障がい者雇用についての理解を深めてもらう。また、道北地域での農業分野における「労働力不足」は年々深刻になっており、障がい者は貴重な「人材」となってきた。農業分野の作業では、作業の「細分化」を行うことができることや、他分野の作業に比べて比較的「単純」な作業が多い為、障がいを持った方々でも作業を行いやすい。 作業ができたことでの「達成感」を得る事、事業所外の方と関わることで「コミュニケーション力」を身に付けることができることで、作業面と社会面の能力向上が図れる。</p> <p><成果></p> <p>作業面では、障がい者それぞれの作業特性を生かした作業が行えたことで、「自信」「達成感」「充実感」を得ることが出来ていた。また、JA職員の方々にもコミュニケーションを取っていただいているので、障がい者の方たちも作業に取り組みやすい環境となっていたため、力をしっかりと発揮して、作業に貢献することが出来ていた。色々な作業に関わることで、作業スキルの幅が広がることや、外部の方々と関わることで、コミュニケーションスキルの向上を図ることが出来た。 課題面として、複雑な作業になると、人を選んでしまい、特定の利用者しか行けないことで、求められた人員数がいけないことがあった。</p>	<p><活動の様子></p>  <p>アスパラ選果施設 (結束機投入作業)</p>  <p>南瓜選果 (はい積み)</p>  <p>そば施設 (はい積み)</p>  <p>南瓜施設 (選別)</p>
---	--

連携先の企業等の意見または評価

青果物選果施設や農産物乾燥調製施設においては、町内の人口減少、高齢化の影響で人材の確保が難しくなっている状況のため、令和元年よりノースリーフと協議を行い、障がい者の方々を使い、人材不足の改善を目指しました。

今年度においても美深地区ではアスパラ選果施設（ホワイト、グリーン）、南瓜施設とそば施設の作業、下川地区ではフルーツマト選果施設、青ねぎ春菊選果施設、そば乾燥調製施設の作業をお願いしました。

既存作業（南瓜施設、そば施設）については、例年通り作業をしてもらいました。そば施設、南瓜施設については、重量物を扱う作業をメインにやってもらっていますので、高齢化が進んでいるこの状況の中では貴重な人材です。

また、アスパラ施設やトマト施設、青ねぎ施設については、手先を利かせた細かい作業でしたので、作業のコツを掴むのに少し時間がかかりましたが、作業を覚えたら他のパートさんと変わらない程度の作業が出来ていました。また、カメラ付きアスパラ原料カット機の作業も行いました。技術と根気のいる作業ではありましたが、何とかこなしていただきました。フルーツマト施設では、トマトを入れる箱作成を中心にやってもらいましたが、手際よく箱を作ってもらうことで、トマトの箱入れも滞ることなく進めることができました。

慣れてきた方が若干ではありますが、作業自体の停滞感が見られる場面もありましたが、事業所と連携したことで、大きな問題にはなりませんでした。

連携先企業名	北はるか農業協同組合 販売部	担当者名	青果課 青果係長 中澤 拓也
--------	----------------	------	-------------------